

映画『伊藤千代子』上映県実行委員会結成
実行委員長に山本友晴氏、事務局は国賠同盟県本部が担当

映画『わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯』の製作が最終段階になり、4月15日から全国上映運動が始まるのを前に、1月27日、熊本県上映実行委員会が結成されました。

治安維持法国賠同盟県本部が、県内の主な労働組合や民主団体、住民運動団体などに呼びかけて結成されたものですが、オミクロン株感染大爆発による「コロナ第6波」で「まん延防止等重点措置」発令中ということで、対外的な対面の会議、集会等への参加を見合わせるという組織が多く、残念ながら当日の参加はわずかでした。ただ、よびかけ段階でほとんどどの団体が参加、協力の意向を示していることや、4、5月の

上映を考えた場合ずるすると先延ばしにすることはよくない
ということで結成されたものです。

会議では、日本が中国侵略へ本格的に乗り出そうと国内の治安体制確立のために治安維持法を制定し、反戦、平和を求める声と運動の圧殺をすすめた1920年代後半、自由と平和、女性の尊厳を求めて勇敢に声を上げ、不屈に闘った伊藤千代子の気高い生き様をえがいたこの映画を、再び戦争と暗黒政治へと突き進みつつある現在、多くの人に観てもらい、7月参院選勝利、政治変革の力にすることが大事であることに



熊本県版

No. 238

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

熊本県本部

〒862-0954

熊本県中央区神水

1-30-7 コモン神水

☎096-381-1807

運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

一、治安維持法体制の復活に反対する。

二、國は戦前の治安維持法が人道に反する惡法であることを認めること。

三、國は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。



国会請願行動の予定が中央本部から示されました。
コロナ禍の中、熊本だけでなく全国的に苦戦を強いられています。あと2ヶ月を切りました。熊本は一人20筆を目標にしています。お手元の署名用紙を埋めてご返送ください。

今年の国会請願行動、5月11日の予定

も立ち上げ、天草独自での上映実現をめざして奮闘しています。この間の国賠同盟の会員拡大は、中心課題である国会請願署名の推進にとってだけでなく、映画『伊藤千代子』の成功に向けて必ず大きな力になるでしょう。

憲法審査会を開催するな！

国賠同盟県本部が憲法審査会委員全員に要請FAX

国賠同盟県本部は1月25日、衆議院の憲法審査会委員（50人）全委員に「改憲につながる憲法審査会の開催に反対します」との要請FAXをいっせいに送りました。

憲法審査会は改憲のための国民投票にかける「改憲原案」を作成する機関であって、憲法問題を自由に論議する場ではないことを指摘し、共産党、立憲民主党の委員には「開催阻止のため頑張ってください」の激励FAX、自民、公明、維新の議員には「開催に強く反対します」の抗議FAXを送りました。



そのうえで、熊本県内では同映画の上映債券を4口確保しているので、それらを有効に活用して熊本市、人吉市、八代市で上映会を計画し、実行委員会加盟各団体がそれぞれ協力して成功させることを確認しました。

まず熊本市での上映会を4月17日に行うことを確認しました。

また実行委員会体制では加盟各団体から担当者を1名づつだし、実行委員長には税理士の山本友晴氏、事務局は国賠同盟県本部が担当することになりました。

天草支部着実に前進！

支部結成後すでに3人拡大

昨年11月に13人で新しく結成した天草支部は、12月に濱明満事務局長が1人、明けて1月には浪床一男さんが2人（ご夫婦）と着実に会員を拡大し、現在16人に前進しています。

また、天草支部では、支部結成と併せて映画『わが青春つきとも—伊藤千代子の生涯』の上映実行委員会「千代の会』

ついで、身動きする度ごとに皮膚が破れ、痛くて堪えられなかつた。それは拷問の責苦よりつらかつた。その傷跡は、いまもドス黒く、私の尻に残つてゐる。それでも正座を崩せば、両手を『万歳』させ、水をいっぱい入れた洗面器を

政権——それを支えている政党に過ぎない それなのに道
敵罪扱いにするのは誤りだ！「
と一気にまくしたてた。

両手の上に載せ、幾時間も正座させられた。私は、『殺されてたまるか！』と、堪えに堪えた。」（『革命の上海で』

٢٣٦

西里は、まさに「堪えに堪えて」非転向を貫いた。

死刑來形

一九四五五年七月二〇日、「公判」が開かれた。公判と言つても傍聴は禁止され、妻の村子が旁聴席に座つていただけで

そして、八月一三二日、「敗戦により罪一等を減じて無期懲役に処す」との判決が言い渡された。

秘密裁判、暗黒裁判であった。
検事は「外患並びに治安維持法違反」で死刑を求刑した。

口を極めて西里の「罪状」を論難した検事の求刑が終わると西里は立ち上がり、「裁判長！」と発言を求め、「外患罪は不当だ」と抗議した。

「自分が所属しているのは中国共産党である。近衛首相は、かつて蒋介石政権を相手にせざと声明し、また日本政府は中国に宣戦布告しているわけでもない。したがつて中國は、國際法上“敵国”ではない。まして自分が所属して

の苦しみに突き落とした日本帝国主義の根を断ち、平和で民主的な新生日本の建設に向つてたたかっていく決意に燃えていた。

西里の八七年の生涯、活動歴からいふと戦後のほうが長い。しかしこの論考は治安維持法下での闘いを主に論じたものなので戦後編については稿を改めて詳しく紹介したい。

一九四五年一〇月、渡鹿刑務所を出所して自由の身となつた西里はしばらく自宅で骨を休めたのち、翌一一月には上京して同盟通信本社に復帰。さらに一二月には日支鬪争同盟以来の仲間である中西功らとともに労働運動、農民運動などを支援する労農通信社を設立。翌四六年一月には日本共産党に入党して革命的ジャーナリストの道に踏み出そうとしていた。

しかし、そうした矢先、郷里熊本から上京してきた高光義明に熊本における労働運動、農民運動の急速な前進とともに、その一層の発展のために、西里に帰郷してその中心になってほしいと懇願され、郷里熊本に骨をうずめる覚悟で四六年一二月に熊本に帰つた。

帰郷した西里は四七年一月には早くも前年秋に結成された農民組織の全県的連合組織・熊本県農民連盟の書記長に就任

総選挙戦は民主連盟側の選挙不慣れや、アメリカ占領軍の「共産党は民主主義の破壊者」との激しい反共攻撃や選挙妨害などもあって思うような成果を上げることができなかつた。さら

した（委員長は中田哲）。「コメの強権供出反対！」「悪代官櫻井知事の即時退陣！」を要求する全県農民大会を熊本市の藤崎宮参道でひらき、数千人の農民が結集した。熊本県農民連盟はその後、日本農民組合（日農）熊本県連合会となり、一万二千人の農民を組織する一大組織に発展した。

労働運動、農民運動をはじめとする大衆運動の嵐のような高揚の中、「生活危機突破2・1ゼネスト」が準備され、情勢はさらに激化したが、その前夜、占領軍司令官マッカーサーが「ゼネスト中止指令」を発することも、国会解散も命令した。

初の統一戦線組織「熊本民主連盟」の書記長に

怒りに燃えた労働者、農民などは「2・1ゼネストの仇を総選挙勝利で！」と、共産党・社会党・労働組合・農民組合・消費生舌組合などが協力して「熊本県民主連盟」が結成された。

「これは熊本における最初の統一戦線組織であつたが、委員長は中田哲、書記長には西里竜夫の日農県連の委員長・書記長が選出され、当時の日農県連の存在と影響力がいかに大きかつたか、その要としての西里の組織力・指導力の大きさを如実に示す

に選挙後、主力の農民組合の中からも占領軍の攻撃に動搖する動きが広がり、しだいに活動が停滞していった。その経過の中で西里は、日農県連の組織はほぼ全県に及んでいたが、共産党组织の無い町村、共産党员がいない町村で動搖が激しく、分裂策動に弱い」と、それゆえ党组织建設が急務であることを痛感した。

そういう中、一九四七年一〇月、共産党的県党会議(県大会)が開かれ、西里は推されて県委員長に就任した。

衆院選立候補——荒尾市一位 熊本市では一位

一九四九年一月に行われた衆議院総選挙に西里は熊本一区(定数五)に立候補した。ようちゅうエンストをおこす中古の木炭車、メガホンでの遊説であったが、熊本市では第二位、荒尾市では第一位の高得票であった。しかし、一区全体では次々点で惜しくも当選には至らなかつた。

その後、日本共産党は一九五〇年一月のコモンズフォルム批判を契機に分裂状態に陥り、一九五五年七月の第六回全国協議会(六全協)で統一を回復するまで不正常な状態がつづいた。

西里は、党中央の機能がマヒし、その指示が分裂した一方の極左冒險主義路線をとる集団からのものである」とを知らず、党中央からの指示であると信じて地下活動に移行し、九州ビニールウ(臨時指導部)の責任者として様々な誤った指導と活動にかかわることとなつた。

地域の一党员として再出発

六全協で自らの誤りを深く反省した西里は、すべての役職を降りて黒髪地域で一党员として再出発した。

当時まだ八景水谷の米軍キャンプには占領軍が残つており、米兵の悪質ないたずらが続発し、若い女性は夜、外を歩けない状態だつた。西里は町を明るくする」とが必要だと訴え、地域の商店を結集して「北熊本振興会」を組織し、「街灯をつける」と対市交渉を繰り返し、次々に街灯を増やしていく。さらに商店の大壳り出しや盆踊りを計画、また水道を引き、側溝をつくり、電鉄バスの夜間運行の延長も実現させた。

さらに「龍ホグ闘争」、「熊本電鉄による県道遮断問題」など国、県、市の行政を相手に地域住民を組織して大闘争を展開し、見事勝利に導くなどその指導力、組織力は健在であった。

ふたたび常任活動家に

一九五八年五月、党県委員会から衆院選への立候補要請があり、それをきっかけに再び、共産党的常任活動家に復帰した。

一九五九年三月、共産党、社会党、県總評による「安保改定阻止熊本県共闘会議」が結成されると西里はその副議長に選出され歴史的な安保闘争の先頭に立つなど大奮闘したが、紙数が尽きたのでこのあたりで筆を擱く。